

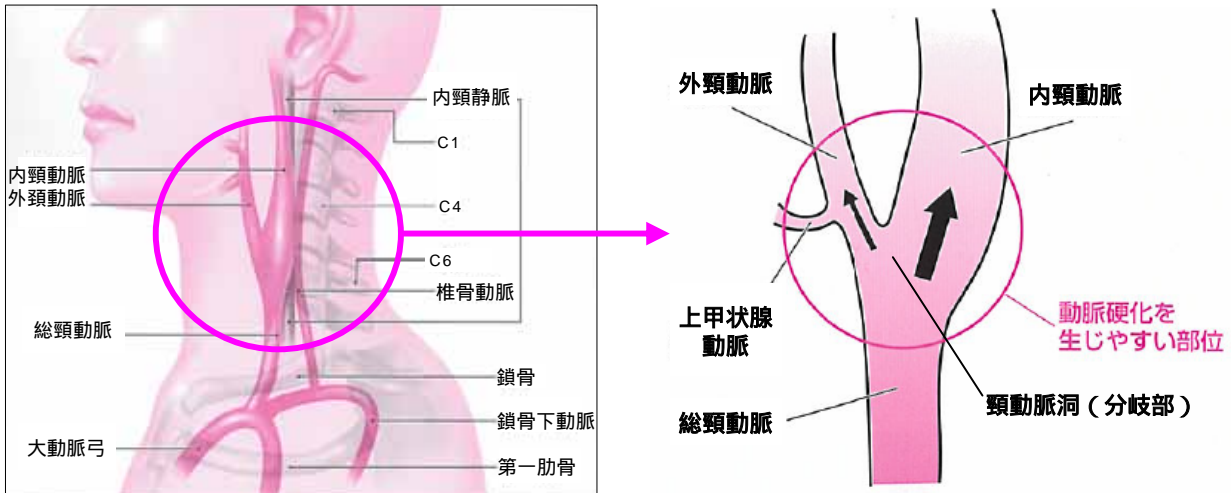
# 頸部超音波検査

## 頸部超音波検査とは？

頸部超音波検査は、動脈硬化の状態を調べる検査で、動脈の壁の厚さや狭さとその程度を検査します。

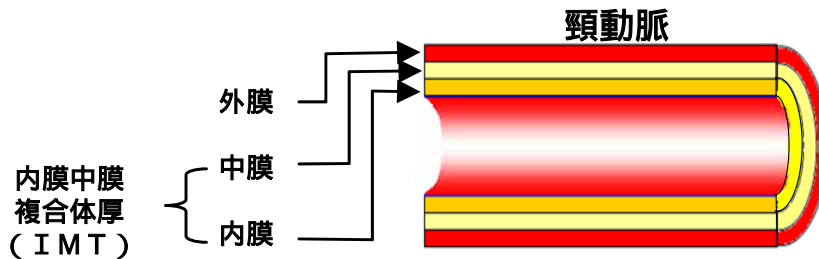
## 頸部血管系解剖

頸部血管系の分枝と走行（左側）



「手にとるようにわかる頸動脈エコーマニュアル」より転載

頸動脈壁は外膜、中膜、内膜の3層からなっています。

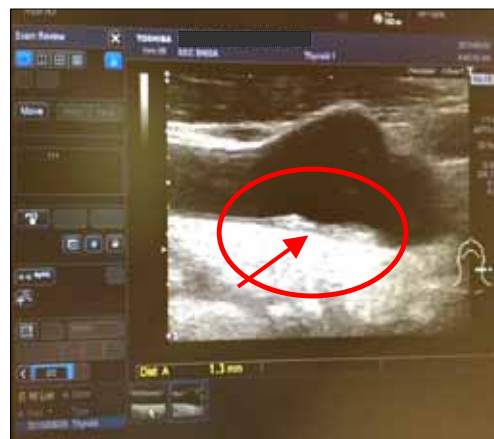


## 頸動脈血管の超音波画像の一例

正常画像



プラクの画像例



## 所見一覧と解説

所見一覧	解説
内膜中膜複合体 ----- 総頸動脈肥厚 動脈洞肥厚 内頸動脈肥厚	<b>肥厚とは</b> 動脈硬化により血管の内壁が厚くなること。 血液の通り道が細くなるので流れが悪くなります。 <b>内膜中膜複合体厚 (IMT) とは</b> 超音波では内膜と中膜を分離できないため、合わせてIMTとして計測しています。動脈硬化の進行程度を示唆します。
<b>プラーク病変</b> ----- 総頸動脈プラーク 動脈洞プラーク 内頸動脈プラーク	<b>プラークとは</b> 血管内腔に限局的に出っ張った、IMTを含めて1.1mm以上になるふくらみです。(正常は1.0mm以下) プラークでも血液の通り道が細くなるので流れが悪くなります。 また、プラークの破綻が脳梗塞などをひきおこすおそれがあります。
<b>形状異常</b> ----- 総頸動脈形状異常	総頸動脈にみられる血管の拡張や狭小、蛇行など形状に異常がないかをみます。
<b>その他異常</b> ----- 甲状腺所見 その他所見	頸部には血管以外に甲状腺やリンパ節などがあり、頸動脈と同時に観察できます。その際、それぞれに病変などがないかをみます。

## 判定区分と解説

判定区分	解説
異常所見なし	異常所見はありません。
要経過観察	所見が認められます。経過を観察する必要がありますので、念のため(3ヶ月または6ヶ月または12ヶ月)以内に再検査をお受けください。
要精密検査	異常所見を認めます。より詳しい検査が必要ですので速やかに医療機関にご受診ください。

## 頸部超音波検査の実際

首の検査部分にゼリーを塗り、プローブと呼ばれる探触子をあてて行います。

### 検査の様子

